[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　2008年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1274900073		
法人名	有限会社　グレイスケア		
事業所名	グループホーム山里		
所在地	〒289-0424　千葉県香取市新里1182－12 (電　話) 0478-70-8156		

評価機関名	特定非営利法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4－4千葉県労働者福祉センター5Ｆ		
訪問調査日	平成20年4月28日	評価確定日	6月10日

【情報提供票より】(20年4月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	16　人	常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算 11人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造
	1 階建ての　1 階 ～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	45,000円		その他	食費42,000, 水道光熱費18,000, おむつ代 (パッド\819　リハビリパンツ\1,995　オムツ\2,940) など
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)		有りの場合 償却の有無	有 (期間:退居時) 居室のクリーニング・修繕費
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり　1,400円			

(4) 利用者の概要 (4月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1	名	要介護2	3	名
要介護3	6	名	要介護4	4	名
要介護5	4	名	要支援2	0	名
年齢	平均 85 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田辺病院、りゅうの歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

畑と雑木林に囲まれた穏やかな環境に立地している完全バリアフリーの2ユニットのホームである。庭には大きな畑や日本庭園などがある。ホームは洋風のユニットと全面畳張り(廊下、リビング、居室など)の和風のユニットがある。竹林の竹の子を竹の子御飯にしたり、庭でニワトリやヤギを飼っており、産みたての卵を調理したりしている。年に1回の一泊旅行や月ごとの行事は原則ホーム側が費用を捻出し、入居者全員が参加できるようにしている。また職員は毎月の食事会で意思疎通を図り、職員間の良好な関係がケアに活きるようにしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)**
	外部評価の改善課題について計画的に改善を行うところまでには至っていないが、問題意識が高く、日々の業務やケアの中で課題抽出、課題解決にあたっている。今後は、この外部評価の結果を活用して具体的に誰が、何を、どのように改善していくのかを明らかにして、グループホーム山里の運営環境にあった手法で実施されることが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)
	運営者・管理者は外部評価の意義や目的を理解しており、全職員に自己評価票を記入してもらうようにした。しかし項目の意義を職員が十分理解するまでは到らず、管理者の思惑ほど浸透していない。自己評価を行うときは評価の意義や目的を職員会議等で少しずつ分かりやすく共有した後に実施すると効果が高いと思われる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)**
	区長や健康福祉課長の参加も得て、職員や入居者、家族の意見交換の場として活用しているが、討議内容は、行事や現状報告に留まっている。今後は、年間計画を立て参加者の役割や目的、討議内容も事前に参加予定者に配るなど、会議を有効に活かす運営が期待される。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)**
	年2回の無記名家族アンケートを行っている。アンケートを分析し、そこから明らかになったものを運営に活かしている。また、ご家族が意見を伝えたり相談がしやすい雰囲気づくりを心がけている。ご家族の訪問時に意見を汲み取るよう努力し、行事や個別誕生会等、できるだけコミュニケーションの機会を増やし意思疎通を図っている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)**
	畑や雑木林に囲まれたのどかな場所で、近くに住居は少なく日常での交流は難しい環境であるが、できることから始めている。畑で収穫した野菜を配ったり、もらったりする関係を大切にしている。今後は自治会や老人会など地域交流を積極的に行っていきたいと考えている。

2. 評 価 結 果 (詳 細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホーム山里」独自の理念は、入居者の気持ち、職員の自主性、楽しい生活を常に意識できるようにわかり易く創られ、掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所のわかりやすい場所に理念を掲示し、勉強会や会議で理念について話し合ったり、日常の業務で職員1人ひとりが意識したケアができるように管理者がフォローしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	畑や雑木林に囲まれたのどかな場所で、近くに住居は少なく日常での交流は難しい環境である。しかし畑で収穫した野菜を配ったり、もらったりする関係を大切にしている。今後は自治会や老人会など地域交流を積極的に行っていきたいと考えている。	○	自治会や地域行事に参加し、ホームや認知症について紹介したり、回覧で行事を告知するなど、更に地域との交流を深めていくことが望まれる。地域交流も防災面や入居者の安全面を考慮した取り組みとして、計画的にできるところから実施されることが期待される。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者および管理者は外部評価の意義や目的を理解している。そして全職員にコピーを配り記入してもらうようにしている。しかし、外部評価項目の意味や意義が十分理解されているというまでには到らず、管理者の思惑ほど浸透していない。	○	外部評価をホームの現状把握と職員の人材育成のよい機会と捉えて、外部評価の意義や目的を職員会議等で少しずつ分かりやすく共有していくことが必要と思われる。そして、改善項目に優先度をつけて、改善方法を具体的に職員で共有し、計画的に、誰が、何をどのように行うかを明らかにして取り組んでいくことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や健康福祉課長の参加を得て、職員や入居者、家族の意見交換の場として活用しているが、行事や現状報告に留まり、効果的な運用がなされていないと考えられる。	○	ホームが目指している運営推進会議のあり方を職員と共に考え、年間計画のもと、全体像や会議の目的やテーマの意義を参加メンバーに事前に伝えることで、運営推進会議の効果や参加意欲を高めるなどの工夫が必要と思われる。まずは計画的な開催の実施が期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の考えや現場の実情を報告する等、随時、本庁や区の担当者とは連絡を取っている。今後も今まで以上に、情報の交換をしたいと考えている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、入居者の暮らしぶりや様子など個々に合わせた内容を、便りと写真、手紙を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回無記名の家族アンケートを行っている。アンケートを分析しそこから明らかになったものを運営に活かしている。また、家族が意見を伝えたり、相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎月、食事会を行い、職員が何でも話ができるような雰囲気をつくり、離職を最小限で抑えるような努力をしている。しかし、個人の事情により離職する場合は、入居者にダメージが無いように、馴染みの管理者や自由に動ける職員がフォローしながら対応するなど配慮している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の会議で勉強会を行っている。県や市の研修情報等も周知し、職員が自主的に受講している。外部研修の機会を設けたり、定期的に内部研修を行っているが、今後は職員の段階に応じた研修が必要と思われる。	○	職員の個別育成計画を立てることで、より効果的な内･外研修、働きながらのトレーニングが設定できる。まずは働きながら「何」を学んでいるのかを職員が知り、学びをケアの質に結び付ける工夫が望まれる。また毎月の会議や食事会でフォーマル･インフォーマルなフォローをし、職員のスキル･やる気を伸ばすのがよいと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村で行われている研修会や近隣の同業者が主催する研修会に参加している。グループホーム連絡会には年に2回参加している。今後は同業者とのネットワークを拡げ、情報交換を行いケアの質の向上に取り組んでいく方針である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居を通して、入居者や家族の気持の確認などを行いながら、ホームの雰囲気も感じてもらえるようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で入居者と共に過ごし、調理や洗濯なども一緒に行いながら、仲良く支えあう関係を大切にしている。		
III．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月初めの入居者との懇談会で食べたい物、行きたいところ、欲しいものなどを聞き、出来ることから対応している。また、日々のケアの中からも思いや意向の把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いや意向を踏まえ、職員、介護支援専門員が話し合い、家族の意見を反映したケアに努めているが、介護計画書にその内容が反映されていないものもある。	○	カンファレンスの結果やご家族の意見を明文化して、介護計画に反映させることが必要と思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月から半年で見直している。状況の変化があるときは、職員と介護支援専門員が話し合い、随時見直している。しかし、介護計画書に反映されていないものもある。	○	職員の気づきが見直しにつながるような仕組みを構築することが必要と思われる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者本人や家族からの要望があれば、入居者のかかりつけ医への通院介助など、可能な限りかなえるよう努めている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人や家族の希望により、もともとのかかりつけ医とホームの協力医療機関のどちらかをかかりつけ医としている。協力医療機関へは3ヶ月に1度の通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者や職員は終末期のケアまで視野にいれており、入居時のアセスメントの際に終末期の対応を家族と話しあって、共有しているが、かかりつけ医との連携が十分とはいえない。	○	今後は職員とかかりつけ医との話し合いを十分にもち、重度化した場合や終末期に、事業所としてのどう臨むかという体制づくり及び方針を作成し、全員で共有することが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に呼び方をどうするか、入居者本人・家族に確認して声かけを行っている。職員は地元出身者が多く、方言を使って話しかけている。個人情報は事務所の鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れは出来ているが、場合によっては食事や入浴など本人のペースに合わせて支援を行っている。入居者の中には、毎日の手伝いを自分のペースで行う人もいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたい物を聞きメニューを決めている。調査当日は誕生会で、入居者の希望のごちそうが並んだ。調理を手伝う入居者も見られ、職員は一緒に誕生会の食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回の入浴のほか、入浴のない日は足浴や清拭も行っている。入浴時間はおおよそ決めているが入居者の希望にも対応している。また、家族の協力を得て入浴をする入居者もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝早くから朝食の準備を手伝う入居者がいたり、食事の配ぜんや下膳、テーブル拭きなど役割が出来ている。職員と一緒に畑で米を作っている人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れた日は散歩や買い物で外出している。歩行が困難な入居者や車いすの方も、一緒に近くのグランドまで出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアを実践している。非常ドアにはセキュリティー機能を設置するなどして職員の見守りと共に、鍵をかけないケアに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行っているほか、消防署の協力も得て消火器の使い方の指導も受けている。また、非常食の備蓄も行っているが、夜間の防災対策や地域の協力が得られる体制が不十分と思われる。	○	夜間の災害を想定した訓練や防災マニュアルの整備、そして地域の協力が得られるような体制作りが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録に取っている。また、各ユニットごとの食事を写真に撮り、見た目や量など職員同士が話し合いを行った。栄養バランスについては栄養士が管理、支援する体制となっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには行事に出かけたときの写真がたくさん貼ってあり、天井には大きな鯉のぼりが2匹泳ぎ季節感を出している。リビングから出られる広いウッドデッキは、食事や日向ぼっこが出来る空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で居心地がよさそうである。入居者によっては、もう少し使い慣れたものが持ち込まれると、さらに居心地よく過ごせると思われる。		